

◆当日のアンケートより

「防災まちづくりフェア」当日は、来場者の皆さんにアンケート記入をお願いしました。代表的なご意見を紹介し、今後の活動に役立てたいと思います。ご回答ありがとうございました。

各イベントへの主な感想・意見

会の活動報告・パネル展示

- ・会の活動の趣旨がよくわかる。
- 災害シミュレーションとまちづくりに関する講演
 - ・防災を甘く見ていた。家族で真剣に話したい。
 - ・生きるための町づくり、人づくりが大切と思った。

児童ポスター展示

- ・小学生が防災に関心があることでよかった。

備蓄食品クッキング

- ・工夫次第でいろいろ楽しめる良い企画だと思った。

119番通報訓練

- ・訓練とわかっていても焦ってしまった。

その他

- ・当日寒かったので、すいとんはとでも暖まった。

防災まちづくりフェア全般について

- ・地区として積極的に防災まちづくりを進めていこうという意気が感じられた。
- ・雨天で残念だった。天気の良い時にもう一度やってほしい。



すいとんの炊き出しの様子

我が家でできる防災対策(その⑥)

◆備蓄食品の賞味期限を確認していますか◆

災害が起こった時、救援物資が届くまでには3日ほどかかると言われてしています。そのため、家庭でも備蓄食品を蓄えておく必要があります。しかし、その備蓄食品にも賞味期限があり、定期的食して、入れ替える必要があります。賞味期限は包装カバーや、缶の底面などに表示されています。

「防災まちづくりフェア」では例年、備蓄食品をおいしく食べる方法を紹介しています。今回は、この度新しく考案し、来場者の皆さんにも大変好評だった「コンビネギ焼き」のレシピを紹介します。



フライパンひとつで
手軽につくれます



コンビネギ焼き (缶詰めコンビーフのねぎやき)

- 材料(1人前): 備蓄用コンビーフ 1/2 缶、万能ネギ 1/2 束、小麦粉 1/2 カップ、水 1/2 カップ、卵 1 個

●つくりかた:

- ①小麦粉と水をよくかき混ぜ、生地をつくる。ネギは 2 センチ幅にきざむ。
- ②コンビーフをフライパンで軽く炒め、いったん取り出す。
- ③生地をフライパンに薄く広げ、ネギ、コンビーフをのせる。
- ④底に焦げ目が付いたらいったん取り出す。
- ⑤フライパンに溶き卵を薄く広げ、表面が固まりだしたら、④をネギとコンビーフが下になるように卵の上に乗せる。
- ⑥底に焦げ目が付いたらひっくり返してできあがり。

●コンビーフって?

粗塩(corn)で塩漬けた牛肉(beef)のことです。備蓄用のものは、塩漬けた肉を高压加熱してフレーク状にしてあり、しょうゆ、さとうなどで味が付いています。カナダ北部のインディアンがつくったとされる高カロリー保存食です。

墨田区一寺言問地区に行ってきました



路地の行き止まり敷地を区が買収してつくられた「会古路地」は、ユニークな名前とデザインで、住民らの管理で維持されていました。

去る 2 月 14 日(土)に、「防災まちづくり先進地視察会」として墨田区一寺言問地区に出かけました。会員外の住民の皆さんの参加も多く、総勢 27 人での訪問になりました。当日は、約 2 キロの徒歩見学でしたが、暖かい天気恵まれ、充実した一日でした。

現地での防災まちづくりの会にあたる「一寺言問を防災のまちにする会」(一言会)のみなさんが、これまでのまちづくりの経緯や活動の実績を紹介してくださり、意見交換の後、実際の街並みを見学しました。

かつての下町の雰囲気やにぎわいを残しつつ、防災の面を考えた「まちづくり」を随所に見つけることができました。

一寺言問地区はこんなところですよ!

一寺言問地区は、墨田区向島を中心とし、地区内の二つの小学校の名前からつけられています。同地区は、都の防災生活圏促進事業による「逃げないすむまちづくり」活動の「モデル地区」として昭和 60 年から取り組みました。この事業はすでに終了していますが、地元の方々の瓦版発行などの活動は現在も続いています。



現地のまちづくりの紹介ビデオを見たあと、一言会の皆さんが向島百花園から隅田川べりまで案内してくださりました。



防災まちづくりを紹介する冊子や、瓦版はこれまでも多く発行されてきたそうです。現在も一言会の皆さんの手で編集・発行されています。



歩道が生け垣やカラー舗装などにより整備されたところがありました。「〇〇の道」というように、親しみやすい名前が付けられていました。

視察に対する会員の主な感想

- ・18 年の活動実績をもつ一言会の皆さんのご発言には一言一言に感銘を受けた。
- ・「路地尊」などを見学して、雨水の利用が盛んに行われているのがよかった。住民の防災意識の向上にも寄与しているのが大である。
- ・「会古路地」や「路地尊」など、防災まちづくりでできたさまざまな施設の名称がユニークでよかった。



「路地尊」には地下に貯めた雨水をくみ上げるポンプがありました。夏場の打ち水や、日頃の防災意識の維持にも役立っているそうです。